

「輝く瞳を」57歳から起業



メディトレック社長

斉藤 和子さん(60)



さいとう・かずこ 商業高校卒。約10年の専業主婦のあと、眼科勤め。2012年に横浜市で起業し、昨年、眼科を退職。

謙虚だ。「この年になって眠っていた能力が開花した、わけではありません」＝横浜市、西畑志朗撮影

視力を矯正したり、瞳の色を変えておしゃれを楽しむんだりするソフトコンタクトレンズ。指でさわらずにこれを簡単につけたり外したりできる器具「meruru」を、58歳で開発した。経営の知識、なし。ものづくりの経験、なし。市場調査したこと、なし。「偉大なる素人」が、未開の分野を切り開いた。

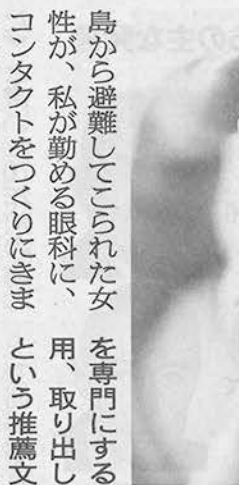
「ソフトコンタクトとのなれそめは？」
「30年ほど前、子育てが一段落したので、コンタクトの検査員の仕事に就き、東京都内の眼科で働き始めました。その人にあつたコンタクトをさがし、つけ外しの指導をする仕事です」



「meruru」でコンタクトをつけるところ。外すときは、指で持っている部分をピンセットのようにして、レンズをつまむ

「悔しくてたまらない日々だったんです。コンタクトをつくりたいと来る方の15人に1人ぐらいが、恐怖からなのでしょうか、目に入れられずに断念してしまっています。『大丈夫よ。また練習しましょうね』と言っても、来てくれません」

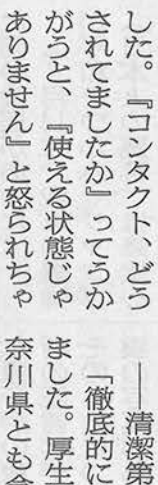
「やわらかい素材といっても、いろいろです。『専業主婦歴10年の思考回路は』台所でつかってきたスポンジかな。さすがに軟らかすぎるか、じゃあシリコーン!』でした。100円ショップでこの素材のものを買ひ集め、カッターで切つて、のりではつて形を考えました」



「meruru」でコンタクトをつけるところ。外すときは、指で持っている部分をピンセットのようにして、レンズをつまむ

「工作の時間みたい。試作は、ネットで探したプロのシリコーン屋さんにお願ひしました。でも、何度つくりなおしてもらつても、うまくいかなくて。お金ばかりかかるので、投げだしちゃいました。情けないですね」

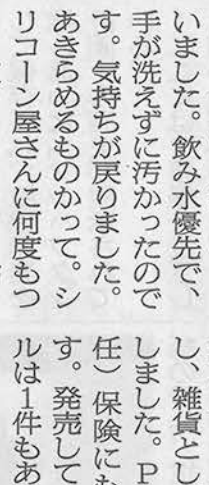
「そこから、心に火をつけたものは何ですか?」
「東日本大震災がおきて半年、2011年の秋に福



「meruru」でコンタクトをつけるところ。外すときは、指で持っている部分をピンセットのようにして、レンズをつまむ

「試作は、ネットで探したプロのシリコーン屋さんにお願ひしました。でも、何度つくりなおしてもらつても、うまくいかなくて。お金ばかりかかるので、投げだしちゃいました。情けないですね」

「工作の時間みたい。試作は、ネットで探したプロのシリコーン屋さんにお願ひしました。でも、何度つくりなおしてもらつても、うまくいかなくて。お金ばかりかかるので、投げだしちゃいました。情けないですね」



「meruru」でコンタクトをつけるところ。外すときは、指で持っている部分をピンセットのようにして、レンズをつまむ

投げ出した試作 震災契機に再起

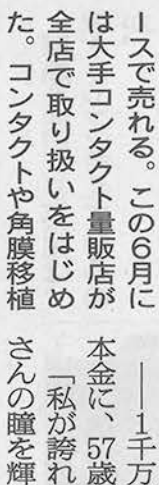
「そこから、心に火をつけたものは何ですか?」
「東日本大震災がおきて半年、2011年の秋に福

感謝屋で泣き虫 好評に勇気100倍

「1千万円の蓄えを資本金に、57歳の起業です。『私が誇れるのは、みなさんの瞳を輝かせたい、と

「やわらかい素材をピンセットみたいにして、レンズをつまめないかな」と

「工作の時間みたい。試作は、ネットで探したプロのシリコーン屋さんにお願ひしました。でも、何度つくりなおしてもらつても、うまくいかなくて。お金ばかりかかるので、投げだしちゃいました。情けないですね」



「meruru」でコンタクトをつけるところ。外すときは、指で持っている部分をピンセットのようにして、レンズをつまむ

「世の中になかった商品売っているのですから、四苦八苦しています。私は感謝屋で泣き虫なおばちゃん。ネットに、ひどい書き込みをされると泣きそうになります。でも、『これを待っていた』『カラコン(カラーコンタクト)、めっちゃ楽しい』といった書き込みがあると、勇気100倍です」

取材後記

お話をうかがって、中小企業やベンチャーを経営する女性のみなさんの瞳が輝いている理由を、再発見しました。男たちがつくってきた大組織や、プロと呼ばれる人たちの

常識に、しばられていないから。起業に大切なことも、再発見しました。情熱であり、とにかく1歩踏み出すこと。そろばんずくで息苦しい日本の企業社会を変えるのは、ぜったい女性の力です。

(編集委員・中島隆)